

放送大学「生涯学習支援番組」(2023年度第1回制作)の制作業務仕様書

1. 業務概要

放送大学学園(以下「学園」という。)のテレビ番組(以下「番組」という。)の構成・演出・収録・編集等の制作業務を行う。

本番組は、2023年度以降に放送予定のテレビ生涯学習支援番組である。

請負事業者は、学園が示す企画方針および計画に基づき、学園プロデューサー等と連絡・協議を行いつつ連携をとり、番組制作業務を遂行する。

2. 請負期間

別紙1のとおり

3. 制作する番組・本数・概算所要経費

別紙1~2のとおり

4. 番組制作業務の具体的内容、手順

1) 放送番組の演出

- ・出演講師、学園プロデューサー等と打合せによる内容原案を元に、演出方法及び内容を策定、実施

2) 内容検討・番組進行表の作成

- ・番組全体の構成案(項目、配列、時間、配分)策定
- ・映像・音声素材等の選定(ビデオ・写真・コメント等)
- ・出演者との内容・スケジュールの交渉(講師・ゲスト等)
- ・ロケーション先の選定、必要に応じた下見

3) ロケーション(国内)の実施と編集

- ・ロケーション(国内)に必要な要員の手配、機材の準備及びロケーションの実施
- ・出演者のヘアメイク及び衣装の手配
- ・ロケーション実施後の映像・音声の編集等、ポストプロ業務

4) 番組の素材資料の収集と作成

- ・動画・静止画・図版等の収集および作成。資料の収集にあたっては学園が推奨する素材(AFP)を優先的に選択する。なお、日本経済新聞社の著作物については使用を控えること(許諾条件の履行が困難であるため)。

5) 請負事業者による「放送大学学園著作物利用規程」に基づく権利処理(音楽等一部を除く)処理にあたっては、以下の点に留意のこと。

- ・学園が定める承諾書を出演者から受領すること。また、受領した承諾書はコピーを保管の上、原本は放送部放送管理課へ提出すること。
- ・番組出演者にかかる出演料、交通費等は、請負事業者が負担すること。
- ・上記4)の素材資料の放送(マルチ編成含む)等利用に関わる著作権等の調査、確認及び権利処理を行い、それに伴う費用は請負事業者が負担すること。
- ・放送(衛星、CATV等による同時再放送を含む)・インターネット配信(学園のウェブサイト上での一般向け公開。ダイジェスト動画においては、YouTube等外部ウェブサイト上での公開にも対応のこと)
- ・学習センター等へのDVD配架等の番組の二次利用に関わる著作権等の調査、確認及び権利処理
- ・権利処理及び利用した素材(音楽及び上記3)等に伴う出演者並びに上記4)含む)等の記録

報告を学園所定の書式（「著作権処理業務完了報告書」及び「楽曲使用報告書」）にて紙及び電子媒体で行うこと。

6) 美術セットの調達と操作

- ・ 大道具・小道具、生花木の調達及び操作

7) タイトル、テロップ・パターンの制作等

- ・ タイトル、テロップ・パターンのデザイン及び制作
- ・ CG・アニメーションの作成及び操作

番組のダイジェスト動画の開始タイトル及び終了タイトルの表示方法は、別途学園プロデューサー等の指示に従うものとする。

8) 番組の試写

- ・ 学園プロデューサーによる完成前試写及び指示に応じた修正作業

9) 放送用台本の作成、印刷

- ・ 放送用台本の作成及び印刷

10) 音響効果

- ・ 番組に関わる選曲および効果音制作等

11) スタジオ収録及び収録時の副調整室及びフロアでの指揮

- ・ スタジオ収録に関わる各種伝票処理
- ・ 出演者・技術スタッフとの収録打合せ
- ・ ドライ、カメラリハーサル
- ・ 学園プロデューサー等の検査後、ディスク等引渡し

12) 広報用写真の作成

- ・ 画像例
 - ・ 番組タイトル画像
 - ・ 各出演者のバストショット画像
 - ・ 出演者全員が映っている画像
 - ・ 番組イメージの分かるグラフィック画像等
- ・ 画像サイズ1920×1080、画像形式は学園プロデューサーの指示に従う
- ・ 学園ウェブサイトでの掲載・ニュースリリース配信等のネット利用のための著作権処理を行っているもの

13) 後処理、手直し等

- ・ 資料の整理
- ・ 伝票の整理
- ・ 番組制作に使用した素材テープ等の入庫整理
- ・ 納品後、番組の手直しについて、請負事業者の責めに帰すべき理由によるものは、請負代金に含むものとする。

14) 上記各項目の業務遂行のために必要な打合せ参加

5. 番組制作業務に必要と想定される職種及び人数

請負事業者は、学園プロデューサーと協議のうえ、当該業務を適切に遂行できるよう各業務内容に応じ必要な専門知識を有する者を手配するものとする。

6. 学園施設・機器等

- 1) 収録は学園のテレビスタジオを使用することができる。その場合、収録に係わる業務に必要な技術要員は、学園で措置する。
- 2) 完成素材収録用 XDCAM メディア、スタジオ収録用 XDCAM メディア、番組審査試写用 DVD-R、番組編成業務用 DVD-R は必要な数を貸与する。

- 3) 請負事業者が手配・調達するものは以下の通り。
 ○学園スタジオでの収録時に必要な要員（技術要員を除く）○ロケ（要員および機材）
 ○オフライン編集（要員および機材）○音響効果（要員および機材）○スタジオ大道具・小道具、道具操作
 ○メイク ○衣装(スタイリスト)
- 4) 上記に含まれないものについては双方で協議して決定する。

7. 記録媒体等

学園が使用する記録媒体はXDCAMメディアであり、記録媒体の学園外への持ち出し及び学園への持ち込みについては、全てXDCAMメディアで対応すること。

8. 学園への納入物品の取扱い

次の完成物を番組の種別ごとに記載された数量を履行期限までに①～④を制作部へ、⑤～⑨を放送部放送管理課へ納入し、学園職員による検査を受ける。なお、納入物品は**学園技術フォーマット**（別添の「**テレビ制作技術基準**」を参照）に準拠すること。

	生涯学習支援番組 (1番組あたり)	告知用動画 (1番組あたり)
① 放送用本番素材記録XDCAMメディア	1本	1本
② クリーンピクチャー収録XDCAMメディア	1本	1本
③ 番組考査試写用DVD-R	1本	1本
④ 番組編成業務用DVD-R	1本	—
⑤ 放送用台本電子媒体	1式	—
⑥ 広報用写真電子媒体	1式	1式
⑦ 著作権処理業務完了報告書* (紙及び電子媒体)	1式	1式
⑧ 楽曲使用報告書(紙及び電子媒体)*	1式	1式
⑨ 出演者から受領した承諾書の 原本 * (「4. 番組制作業務の具体的内容、手順」の(5)を参照のこと)。	1式	

※学園所定の書式で提出すること。

9. 番組制作業務完了の報告

請負事業者は、業務完了後「番組制作業務完了報告書」を放送部放送管理課に提出すること。

10. 請負代金の請求・支払

請負事業者は、8及び9の検査に合格したときは、請負代金を学園に請求する。
 学園は、適法な請求書受理後、40日以内に財務部経理課から支払うものとする。

11. 著作権の帰属等

- 1) 制作した番組に関する著作権（著作権法第 27 条及び第 28 条に規定する権利を含む。）は学園に帰属する。
- 2) 番組は、学園の著作名義で公表する。
なお、制作協力等の表示は、学園の基準によるものとする。
- 3) 学園は、番組等及び関連素材を必要により改変して使用することができる。
- 4) 上記各項目は、許諾を得た第三者の権利の帰属に影響を及ぼさない。

12. 業務内容の変更等

- 1) 本仕様書に規定する事項は、別の定めがある場合を除き、請負事業者の責任において履行するものとする。
- 2) 予期することができない状態の発生など、業務内容を変更せざるを得ない場合には、学園と請負事業者が協議の上で、業務内容を変更することができる。
- 3) 業務内容が変更された場合には、請負代金についても協議の上、変更することができる。

13. 安全の確保

- 1) 請負事業者は、業務の実施にあたり、請負事業者の従業員を直接指揮命令する者（以下、「現場責任者」という。）を必要に応じて 1 名以上選任し、任務に当たらせるものとする。
- 2) 現場責任者は、業務の実施の過程における安全対策について、請負事業者の従業員およびその指揮下にある全てのスタッフの安全確保に十分取り組むとともに、徹底を図る。

14 業務の再委託等

- 1) 請負事業者は、業務の実施にあたり、業務の全部について、一括して第三者に請負わせたり、一括して第三者に再委託してはならない。
- 2) 業務の一部を第三者に対して、請負わせたり、再委託する場合、請負事業者は、あらかじめ、所定の事項について、学園に申請した上で、承認を得なければならない。

別紙 1

制作する番組・本数・概算所要経費・請負期間

1. 生涯学習支援番組 1番組

No.	分類	題目名	放送（ネット配信含む）期間	概算所要経費（税込）	請負期間
1	“科学”からの招待状	大統合自然史第2部～地球を知る～ (45分×3本)	2年 20回	7,161 千円	契約締結日～ 令和5年11月30日

2. 告知用動画（放送やネット配信等で利用する1分間の告知用動画） 1番組

No.	題目名	本数	概算所要経費（税込）
1	大統合自然史第2部～地球を知る～	3本	上記1に含む

テレビ制作技術基準

別添

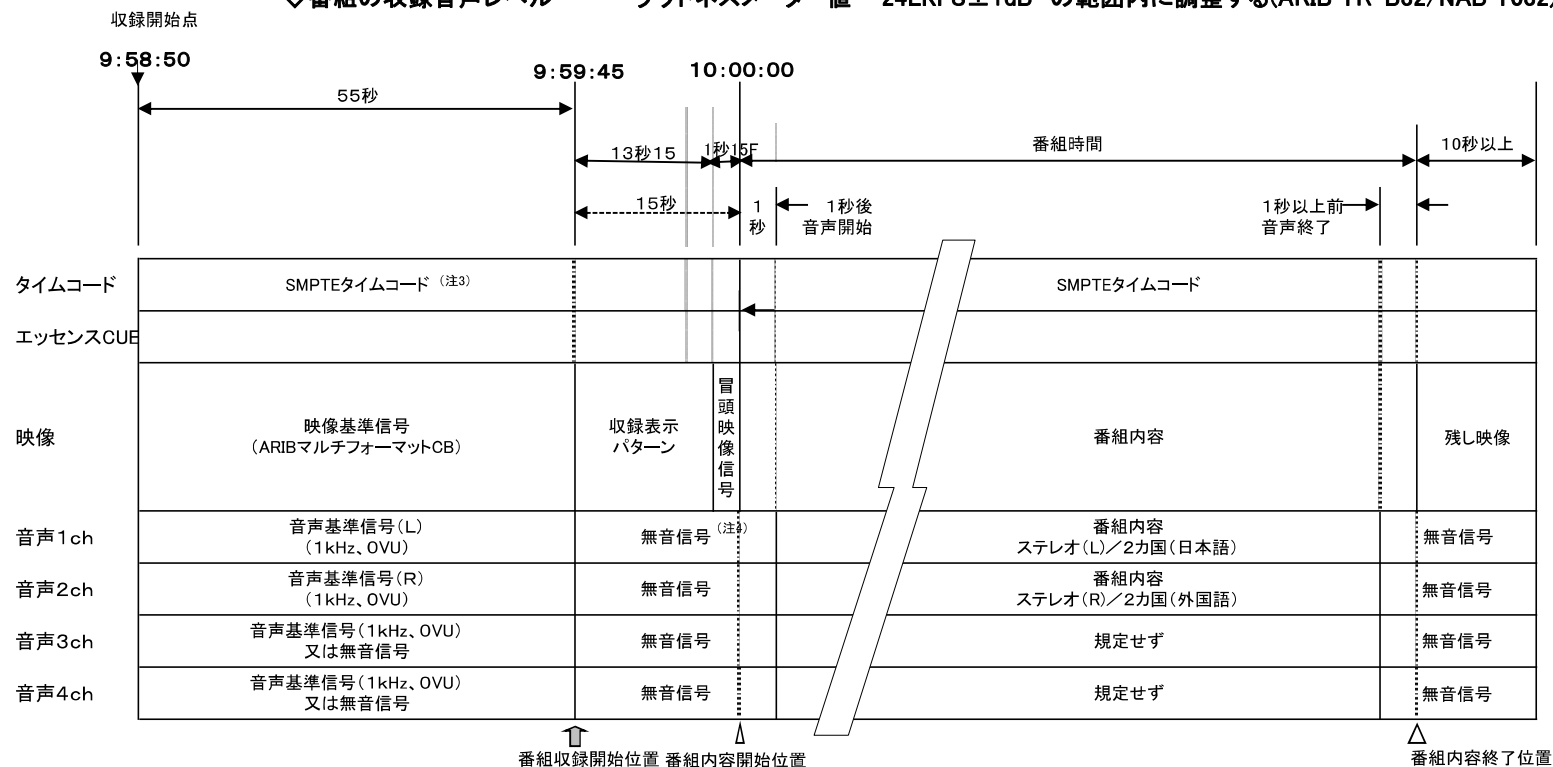
XDCAM-HDディスク放送用収録フォーマット

令和3年4月1日

◇映像:MPEG2 422P@50Mbps ◇音声:LPCM 48kHz 24bit 8ch ステレオ

◇MXFオペレーションパターン OP1a

◇番組の収録音声レベル ・ラウドネスメーター値 -24LKFS±1dB の範囲内に調整する(ARIB TR-B32/NAB T032)



* 予備SB(ステーションブレイク)は、1枚のディスクに複数本収録するが、それぞれが独立したファイルに1クリップで基準フォーマット収録する。

* 送出サーバー登録時、09:59:58:00からファイリングするため表示パターンを09:59:58:15まで記録する。

- 注1: ARIBマルチフォーマットカラーバーは「ARIB STD-B28」に準拠すること。
- 2: 音声基準信号は、OVU=基準量子化値(フルビットから20dB下がった値 -20dBFS)とする。
- 3: タイムコードトラックには、収録開始位置から連続したSMPTEタイムコードを記録すること。
- 4: 無音信号とは入力信号を絞りきった(無音の)音声信号が記録された状態をいう。
- 5: 番組試写終了後、TDまたは担当者がラウドネスメーター値を番組収録連絡票に記入すること。
- 6: デジタル音声のプリエンファシスは使用しないこと。
- 7: ディスクごとに「ワンクリップ」収録とすること。
- 8: 末尾のフィラー音楽開始については、1秒以上音声の空白を挿入すること。

別添

外部制作での完プロ制作における編集ソフトの考慮すべき項目

制作番組の完成品（完プロ番組）を放送大学学園に納入の際は、サーバ登録、送出、制作の観点から、下記の編集ソフトウェアを使用すること。

1. エディウス（GrassValley EDIUS）
2. プラナス（PRUNUS）
3. アビッドメディアコンポージャー（Avid Media Composer）

※書き出し時のエンコーダは「Avid Media 4.4.」を使用すること

4. ブラックマジックデザイン(Davinci Resolve+Main Concept)

なお、上記以外の編集ソフトウェアを使用する場合は、必ず、XDCAM ディスクにベースバンド収録して完成品とすること。

以上によらない場合は、あらかじめ学園の承諾を得ること。

(※出演者は現時点の予定であり、変更の可能性がある。
出演予定者に内容等問い合わせを行うことは厳禁とする。

制作する番組・本数・概算所要経費

担当プロデューサー、ディレクター

真淵威志

1) 番組名(グループ名) "科学"からの招待状	2) 個別番組タイトル 大統合自然史第2部～地球を知る～
3) 関係の深いコース 自然と環境	5) 番組尺、本数 45分 × 3本
4) 放送回数、期間、マルチ展開など 2年20回 インターネット配信公開講座等オンラインでの展開希望	6) 内容等 a. 目的・ねらい 学術性 本提案は、最先端研究所(極地研・JAXA・総合地球環境学研究所など)の研究者と放送大学の自然科学系・人文系の研究者が協力し「大統合自然史～宇宙・生命・人類～」として展開するシリーズの第2部完結編として企画するものである。第1部(全6回)では宇宙創成から生命誕生までを人間とは独立な自然科学の目線で描いた。今回の提案は、2022年度に制作する第2部～地球を知る～(全5回)のうち3回分に該当し、これによって第2部が完結する。第2部を貫くテーマは「地球という存在と生命との関わりを様々な視点(領域)から捉え直す」ことである。2022年度制作分として、以下の2本が制作進行中である。 ●金星にならなかった地球(45分×1):惑星科学・地球科学の観点から佐藤毅彦氏(JAXA)が論じ、金星・火星と地球の環境の差異を浮き彫りにする ●地球環境変化の人類史(45分×1):生命の惑星としての地球に視線を移し、阿部健一氏(総合地球環境学研究所教授)が地球環境を改変することで進化してきた人類を概観する。 これら2本に引き続き、今回は以下の3本を制作する。 ●地球生命誌の保管庫・南極(45分×1)伊村智氏(極地研、22年度末まで南極滞在) ●地球の物質循環と生命の進化(45分×1):尾崎和海氏(東京工業大学 理学院 地球惑星科学系) ●古気候の復元から見える地球環境と人間(45分×1):中塚武氏(名古屋大学大学院環境学研究科教授) 以上5本が揃うことで、「人類が住む地球という環境を知る」というひとまとまりのシリーズが完結する。各分野のエキスパートが学問的知見に立脚したまなざしで物語を紡ぐことで、いわゆるビックヒストリーとは異なる大統合自然史を放送大学から発信したい。今回完結する第2部を踏まえ、続けて「人類世界」に重点を置いた第3部を展開することを視野に入れる。 公益性 現代科学の対象領域はあまりに広大かつ細分化されており、一般の人々がその全貌を捉えることが不可能になっている。この番組では、「私たちの地球」という入りやすい切り口を提示することで大木の視聴者を掴めると期待する。環境問題やエネルギー問題とも密接に絡む内容であり、現代を生きる私たちの強い社会不安に応える役割も果たすと期待される。大統合自然史のコンテンツは、「研究者の先進的知見を教

養教育に直接反映させる」という点で先進的取り組みになると考えている。高等学校新学習指導要領で 22 年度から始まった「探求科目」との親和性も高く、高校教育現場への訴求効果も見込める。さらに大学共同利用機関との連携を通して放送大学のブランディングにも資すると思われる。

経済性 最先端の研究所・研究機構の実験設備（大学共同利用機関等）を使った国内ロケを行う予定であり、著作権処理などの観点で経費がかさむ心配はない。解説に用いる動画やスライドなどもすべて独自に製作する予定である。

b. 内容・構成

今回提案する 3 番組の内「地球生命誌の保管庫・南極」では、2022 年度末まで第 64 次南極地域観測隊長として南極に滞在する伊村智氏が、南極大陸の地上および地下の広大な空間に閉じ込められた地上生命の源流を俯瞰する。例えば、南極氷底下 4km に位置する巨大湖であるボストーク湖（琵琶湖の 22 倍に匹敵）は 1500 万年以上前から存在し、最近ではここに 3500 種あまりもの有機体 DNA が存在することがわかっている。極限環境下に閉じ込められた生命の起源という観点から、先端研究の知見を発信する。伊村氏自身による豊富な映像や画像を駆使する。南極と地球生命という組み合わせを通して、インパクトのある番組構成が期待できる。次に「地球の物質循環と生命の進化」に関しては、現在破壊の危機にある地上の大気および水環境がどのように形成され、どのように守られてきたのかを最新の学術的知見と映像を駆使して尾崎和海氏が解説する。なお、収録は国立極地研究所および東京工業大学でのロケを予定している。また「古気候の復元から見る地球環境と人間」では、古気候学を専門とする中塚武氏が研究成果を考古学に照らして人類史を見直す。関連資料を多く収蔵する名古屋大学中塚研究室でのロケを予定している。

c. 取材対象 ロケ取材 : 有

宇宙航空研究開発機構（JAXA）、総合地球環境学研究所、名古屋大学

d. 出演者など（※キャリアアップ支援認証制度を希望する場合は、担当講師及び客員教員発令の有無も記載）

内容・構成参照

7) 主体性の確保

放送大学教員（岸根・魚住・大森）が主体となって全体を監修する。

8) 制作予定期間

契約締結日～令和 5 年 11 月 30 日

9) 演出上の特記事項

10) スポット制作希望(原則有り) 有

11) 字幕制作希望 有